

様式 2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP 公開 (可 ・ 否)

区 分	1.森づくり 4.森と暮ら	2 森の恵み 5.森の文化財	3.森と技 6.森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 炭焼き	(ふりがな) すみやき	
地域独特の呼び方	—		
タイトル	小塚製炭試験地		
伝承地域	双葉郡大熊町大野字野上		
由 来	<small>(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられたか)</small> 小塚製炭試験地は昭和 15 年 6 月に当時の農林省山林局が製炭事業振興のため、大野村野上事業区内(現大熊町大野字野上)に設置した。間もなく太平洋戦争に入ったことにより木炭の増収、副産物の生産利用などの需要が増加し、それ応える木炭界の中心施設として大きな業績をあげた。燃料エネルギーの転換期を迎え、昭和 32 年度後半富岡営林署は当事業区内の生産を廃止し、試験地も発展的に閉所された。		
内 容	<small>(内容とともに、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども)</small> この試験地での成果は大きく分けて 6 点ある。 1、農林 1 号窯の普及 製炭窯は古くから製炭者の経験に基づき築造されてきた。名人芸的な製造法ではなく科学的な知見に基づく窯が農林 1 号窯であった。当時としてはかなり合理的な設計がなされ、国内ばかりでなく東南アジアやインド方面まで普及した。 2、在来窯の再認識 製炭窯の材料の土石は、そのほとんどが現地のもを用いるのが通例である。土質や環境など土地の特殊事情を考慮した在来の窯の改良に努め、製炭業の振興に寄与した。 3、製炭窯の科学的検討 炭窯の熱精算、窯内のガス分布、排煙量、通風量などの測定を行い、従来は勘に頼っていた諸要素について具体的な検討を加えた。 4、製炭副産物の利用 木酢液の多方面での利用の道を拓いた。 5、輸送、包装の研究 輸送にかかる木炭の減量化を検討し、特殊炭俵の編み方を考案。 6、製炭労務調査 本試験地では製炭業者の家庭生活まで立ち入って徹底した労務調査を実施し標準資料を作成した。		
文化財等の指定状況			
問い合わせ先	(出典)『大熊町史』 大熊町教育委員会		

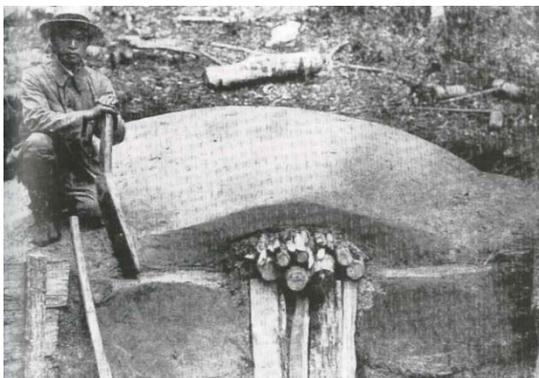
【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名（ふりがな）		※顔写真ありましたら、コピーか電子ファイルをご恵与願います。（貼りつけずに名前がわかるようにして同封ください。）
	性別・年齢	男 ・ 女	
	生年月日	明治・大正・昭和・平成 年生	
	住所・電話	〒 電話	
団体	職業		
	団体名（ふりがな）		
	代表者氏名（ふりがな）		
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成 年 月 日	
	問い合わせ先		電話

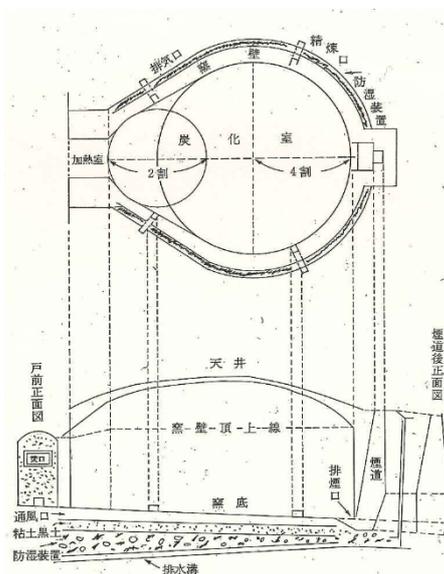
【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

キーワード

小塚式簡易黒炭窯



炭窯の構造図



(大熊町教育委員会)

※活動の様子が分かる資料等があればコピーを1部ご恵与ください。